

## 1. 町づくりキャンペーン全体講評

「認知症でもだいじょうぶ」町づくりキャンペーン2006地域活動推薦委員長 堀田 カ



第2部の「認知症でもだいじょうぶ」町づくりキャンペーン発表会の中にはそれぞれの町のいろいろなやり方、すばらしいモデルが詰まっております。こういったモデルをどんどん吸収していただいて、いろいろな形で自分の町に適した形で広がりますように心から祈っております。

この表彰も3回目になりますが、回を追って、活動が確実に進んでおります。特に今回は当事者の方自身がいろいろな活動をしておられます。たとえば、岐阜県の「校舎のない学校」では認知症の方がお医者さんに認知症のことを教えておられる、それで認知症の方に報酬が支払われている、そういう素晴らしい活動が展開されております。それから富山県の「グループホーム水橋の家」では認知症の方々が子供たちの通学路の安全を守っておられる。ほかにも認知症の方々をそれぞれの第一線でみて、その能力を活かそうと考え、「これはやれるんじゃないか」ということをやってもらう、それにはどうすればよいかという思いで今回の表彰事例を参考にさせていただくと、いろいろな活動がそこから生まれてくるのではないかと思います。

いろいろな活動が紹介されますので、そこから何かを汲み取っていただき、来年度もそれがさらに深まればと思います。

受賞した活動はそれぞれ素晴らしい活動ですが、やはりその町で、まだまだ数少ない活動であって、先駆性があるわけです。こういった活動がめずらしくはない、どこにいても当たり前にもみられる、そういうところまで日本が進んでいきますように、心から願っております。

みんなでいろいろ学んでいきましょう。